

梅窓院通信

No.38 2008/09/01 秋彼岸号

青山
AOYAMA

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



秋のお彼岸も間近となりましたが、皆さんお元気で過ごしてでしょうか。暑さ寒さも彼岸まで―温暖化を実際に身体で感じるようになった昨今ですが、こうした慣用句のようにお彼岸が季節の区切りになるといいですね。

前号でもお伝えしましたが、この秋のお彼岸後から来春にかけて、墓地中央の桜の木の下を整備します。実は桜の根で傾いてしまう墓石もあり、木の下にある墓地を移動させていただき、そこに石の椅子と石碑を建てるつもりです。石碑は明治時代に梅窓院境内に建立されたもので、現在は石屋さんに預かっています。

来年の桜の時期にはそこでお花見ができるように進めていく予定ですので、楽しみにしていて下さい。また、移動をお願いするお檀家の皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力をお願い致します。

さて、今年も施餓鬼会とお盆法要が無事に行われました。

施餓鬼会はお子さん連れでも大丈夫のように預かり施設を準備し、幼稚園の先生二人と当院の職員二名の合計四人でお預かりしました。朝十時から法要終了後までですので、来年もどうぞ安心して家族みんなでお参りにおいで下さい。

お盆法要はちょうど入りの日が日曜日と重なったこともあったので、新盆のご家族を中心に二百名を超えるお参りの方が出席されました。お堂いっぱい皆様が称える南無阿弥陀仏が耳に残っています。どうか、これからも一人でもおおくの方にお参りいただければと思う次第です。

亡くなった方へのご供養の形は色々ありますが、お盆はその中で最も伝統的であり代表的な行事です。お彼岸と同様に、親から子へと伝え続けたいものです。

仏教歳時風物詩 (3)

後の彼岸供養

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦 上人

秋

のお彼岸は春のお彼岸に対して、後の彼岸という。ことわざにも「暑さ寒さも彼岸まで」「暑い寒いも彼岸ぎり」、あるいは「暑さの果ても彼岸まで」などといわれるように、秋分の日を迎える頃になると、残暑も終わり、秋の涼気がおのずから定まり、まさに秋風秋気の頃となる。つまり二百十日、野分・台風^{のわき}の季節も過ぎ、しのぎやすい秋の好季に落ち着く時候ということになる。

秋といえば実りの秋。米を主食とするわが国では、秋の田の稲刈りの風景こそ、国土草木の万象の実りの象徴である。たわねに実った稲穂を刈り取る人々の笑顔は、いのちの糧のありがたさに感謝する尊い心を映している。私たちも、稲作に従事した多くの人々の労力と努力の結晶である新米の一粒一粒に、心からの感謝を捧げなければならぬ。

そして秋季彼岸会には、そうした秋の実りのいろいろを、私たち自身の感謝の心とともに供えなければならぬ。九月・初秋の実りは、まさに秋の実りの走り物、初物である。山野で採れる作物から海産の品まで、仏へ供養する品々は、同時にまた私たちがおいしく食べさせていただく秋の味覚の旬^{しゅん}。

のものということになる。

後生にも実の入る秋の彼岸かな (如白)

文政三年に刊行された青野太師編『発句題叢』に収められている句である。初五の「後生にも」とは、慈悲深い功德としてという意味であるが、ここでは、「ありがたいことにも」と意識してよからう。まさしく秋の彼岸時分は、ものみな結実の季節であり、作物の収穫の季節でもある。

彼岸中日霧が朝日をとほくしぬ (清)

和地清の句であるが、朝霧が真東に昇る日差しをいささかぼかしているようである。しかし秋分の日、太陽は昼夜を二分して真東から中天高く南中して、やがて真西に沈む。その夕日のはるか彼方に西方極楽浄土がある。

南無秋の彼岸の入日赤々と (寸七翁)

宮部寸七翁の句に導かれて、私たちも阿弥陀如来の慈悲の救いを深く祈り念ずるのである。

『観無量寿経』の日想観文では、「まさに心を専らにして、念を一処に繫^かけて、西方を想うべし」と説き起こして、さらに、

まさに想念を起こして、正坐^{しょうざ}して西に

向かい、諦^{あきら}かに日を観ずべし。心をして堅住^{けんじゅう}し、想を専らにして移^{うつ}さざらしめて、日の没^{もつ}せんと欲して、状^{かたち}、懸鼓^{げんこ}のごとくなるを見よ。すでに日を見おわりなば、目を閉じ目を開かんに、皆明^{みょうりやう}了^{りやう}ならしめよ。

と説いている。——心をしっかりと集中して、思いを乱すことなく、太陽が沈もうとして大空に鼓をかけたような光景を見る。この夕日を見たら、目を閉じても開いても同じように、太陽の形が目映っているようにする。もとより西方に向かつて正しく坐り、はっきりと太陽を観なければならぬ、と教えているのである。

いわれるように、春の彼岸に播いた菩提の種は、秋の彼岸に結実する。後の彼岸の仏心とは、実りの秋への感謝の思いであり、その感謝の心を寺参り、墓参りして、今は亡き先祖の精霊^{みんぎょう}に供えるのである。加えて、今年一年の無事平安を願いながら、私たちみずからのもうひと踏んばりを約束するのである。

ちょうど半年前、春のお彼岸に供養した心に、祈りを重ね、思いを合わせて、後の彼岸の供養を心していただいた。

(大正大学教授)

孟蘭盆会法要

7月13日(日) 梅窓院本堂



孟蘭盆会法要の様子。



施餓鬼会大法要

7月21日(月) 本堂・祖師堂

満員の祖師堂で行われた施餓鬼会大法要。

行事報告

第44回 念仏と法話の会

6月6日(金)

精勤表彰者



第15回郡上おどり IN青山

6月21日(土)・22日(日) 境内

雨にも見舞われましたが、たくさんの方が来場。郡上おどりを楽しみました。

彼岸寄席

午後1時～ 1階 観音堂

三遊亭 歌る多 師匠

プロフィール

1962年荒川区生まれ。1981年三遊亭圓歌師匠に入門。1993年女性初の真打ち昇進(女流杵)。2000年女流杵撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。



三遊亭 歌る多 師匠

前座 三遊亭 多ぼうさん

九月二十三日(火)

秋彼岸 法要

秋彼岸会法要

午後2時～ 2階 本堂

お彼岸ライブin青山

Pjeckae(ペチカ)・Acushla(アクーシュラ)他、前回好評でしたSoothe(スーズ)のみなさんも参加します! (別紙案内もご参照下さい。)

開 場 午後2時45分

地下2階 祖師堂

開 演 午後3時15分

入場料 お布施 500円以上

(ドリンク付きです。)



今年春のお彼岸ライブの様子。

塔婆申込み方法

同封のはがきを使い9月15日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は1本7,000円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いします。

秋彼岸に寄せて

皆さんこんにちは。今年も暑い夏が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。

さて、最近「エコ」という言葉をよく耳にします。皆さんも何かしらで気を遣っていらつしやるのではないのでしょうか。ですがこう暑いとエアコンを使わずにはいられない。という方がほとんどではありませんか? 私もその中の一人ですがエアコンを使うのでも設定温度を少し変えると全く違ってくるそうです。外から帰ってきて暑いからといって最低温度に設定していませんか? 実は人は環境が整っていれば二十八度でも涼しく感じられるようで、このことは考えさせられました。

次に車です。ガソリンを使う車は家計を圧迫するだけでなくCO₂を排出し環境を破壊しています。この車の使用を極力控えることで家計も助かり更には環境を守ることもなります。これから近場に用があるときは自転車を使ったり歩いてみる。そしてスーパー等で買い物をするとき必ず出てくるレジ袋! これも原材料は石油なのでこれから買い物に出かける際はエコバッグを持ち歩く。

と、このように気をつけることの例を挙げるとキリがありませんが、お彼岸という一週間の修業期間でいかに私たちが常日頃余分に消費しているかに気づき、「エコ」を今までより更に身近にしていただき、一週間と言わずに、常に心がけるように生活して参りたいものです。(法務部)

東十八檀林

KANTOU JYUHACHI DANRIN

第三回目となります関東十八檀林の特集をおおくりいたします。今回は檀林で学んだ学生(僧侶)たちがどんな生活を送ったか、またどんな勉強をしていたのかについて紹介致します。最短でも二十七年かかったというのですから、昔はお坊さんになるのは相当大変だったようです。

副住職 藁谷 真敬

七、礼賛部「往生・法事・般舟各礼賛・観念法門」五部九巻の

中の四帖疏を除き、行儀分と称される教科目を修学し、

八、論部「往生論・論註」浄土往生の実義を学ぶ。論註は往

生論の理論的根拠であり、浄土教の高度な論書として重視された。筋を立て、如法に勤めて領解する過程を説き、念仏は如来の本願、釈迦の出世の本懐であることを正しく判釈し含味する事を旨とする。

九、無部 宗乗八部二十四年間を修学し、論釈を極め、宗要に精通した者が到達できる処で、宗義について学ぶものが無いという意味である。

以上の九部の教科区分は、聖岡上人が宗門の章流を徒弟に伝授された時、教相・教興・宗旨・宗義の四分に分けて説いたことに基づくものと言われています。

さて、九部修学の励みとして、選択部から上読と言って大論義の高席に着くことが許され、又、檀林修学十五年後は両脈を相承し、二十年にして聖書の認可を受け、諸手続を経て本寺に申し出ると正上人(僧都)の称号を得ることができました。無部も修学三年と定っていましたが、修了年限が定っていない為、何年でも在籍できました。この在籍期間に檀林能化職・紫衣地・別格寺の住職に転任する者もいました。優秀な者は無部に在籍しつつ出世転昇を待っていました。

学寮生は入部以来、日々宗学の講義を受け、余暇には余乗や外典を習学できました。宗学の評価は法問と講釈によつてテストされました。法問とは問答のことを言い、宗乗に関する問題を出して、問答論議を行って、学生を教育訓練することを旨としました。これには上読と下読の二種の法問がありました。

学寮の生活(前編)

入寮を許可された学寮生は、宗乗中心の教育方針に則つて作られた九部の修学に専心精励しました。宗学の科目を浅から深へと履修課程を九部に分け、一部を各三年修学しました。そして一部毎に春秋二期の講釈試験があり、認可されると次の部へ部転(進級)できました。全課程の九部を修了するには最短で二十七年を要しました。今、履修科目の九部名称を列挙しますと

一、名目部「浄土略目図・同見聞」宗祖の本宗章疏と聖岡がその意を補した著を以て、新学の徒に聖浄二門・難易二道厭離欣浄等の二蔵二教の教相判釈の大綱を了解させることを旨とする。一宗と一般教学の綱要を学習する。

二、頌義部「釈浄土二蔵義」「二蔵義見義」聖岡の選述を通して、大小二蔵・顕密二教等の権実・事理に精通了解のあつたことを旨とする。

三、選択部「選択集」「徹選択集」「選択伝弘決疑鈔」本宗の根本教理を深く究め、その深意を以て宗風を宣揚するを旨とする。この席より上読みと言って大論義の高席につくことができる。

四、小玄義部「観経疏玄義分十四行偈」善導大師の著を通して、観経の大意・概略を研究し、凡入報土の大義を了解する。

五、大玄義分「観経疏義分」前記(序文)以下の文を修学し、一代の教興を理解するを大玄と称した。

六、文句部「観経疏三巻」観経の文相を解釈し、定善十三巻、散善三福九品の奥義を研究する。この部の多くは香衣を着して参内、上人の論旨を賜う。一宗の中堅層であつた。

ここで「読」とは算題(論義の題目)を挙唱することであり、担当者が宗義に関する論義の題目を読み上げ、それを論議するという方式でありました。尚、法問には捌という役があり、論者の立論を誘発したり、気づかない点を陰に教え進行が滞らぬ様に仕切りました。上読の捌は学頭が当り、下読の捌は頌義部頭の僧がその任を果たしました。一山常在三千と言われる学寮生は、在学成績と臘年によつて、左記の席に順次転昇しました。釈迦の説法時には、普現・文珠を上首とし、目連を聲聞の衆長としました。それになぞつて、増上寺三千の僧衆を上は学頭より下は新来の衆に至るまで浅深に階位し、九部に別ち、五席(月行事席・一文字席・横木間席・縁輪席・一番席)に決めました。各席の長を月行事は学頭、一文字は衆頭、横木間以下は席頭と称しました。

(つづく)

聖岡上人と十八檀林



聖岡上人(一三二一～一四二〇)は浄土宗第七祖で、小石川傳通院の開山。常陸国の生まれで八歳の時に瓜連常福寺の了実上人について出家、十五歳で常陸太田の蓮勝上人、十八歳で箕田の定慧上人について学び、当時の浄土宗の実情を憂いたこれらの三師の期待を担った若手僧侶であつた。

聖岡は浄土宗乗の研鑽を終え、さらに天台、真言、俱舍、唯識、禪、神道など他宗諸学に加え和歌までと幅広い知識を得、後に他家の額を知り自家の宗を昂揚するという随他扶宗の聖岡教学を生み、現在の浄土宗僧侶養成の仕組みや五重相伝の基礎を築いた現在の浄土宗の産みの親ともいえる僧侶。檀林教学の教科書の元になる著作も聖岡が著している。増上寺の開山堂に御像がある(写真参照)。

十八 檀林の寺々②(南関東九か寺)

だいがん じ 千葉県 大巖寺(生実) 〔創建〕天文20年(1551) 〔開山〕貞把上人 〔特徴〕開運増慧の寺 生実城主原氏の夫人の病を治した貞把上人の為に原氏が建立したお寺。十年かけた大工事で本堂ほか、学寮が四十有余建てられるほど、開山上人の学徳が慕われていた。 開山上人が若い頃成田山で靈験を得たことから、成田不動尊の御影像が勧請され、今も多くの参詣者の信仰を集めている。 	とうぜん じ 千葉県 東漸寺(小金) 〔創建〕文明13年(1481) 〔開山〕愚底上人 〔特徴〕寺宝が多数残る名利 室町から戦国時代へと変わった頃に創建された古刹。法然上人所持の伏鉦、恵心僧都筆の二十五菩薩来迎図、徳川家康公肖像画など、貴重な寺宝が数多く残っている。また、江戸時代中期から始まった御忌大法要は御忌まつりとして親しまれ、参道に植木市が立つ。また第七世了学上人は徳川二代将軍の葬儀の大導師を務めている。 	こうみょう じ 神奈川県 光明寺(鎌倉) 〔創建〕寛元元年(1243) 〔開山〕良忠上人 〔特徴〕十夜法要発祥の寺 浄土宗の第三祖である良忠上人が関東での浄土宗を広めるための拠点として創建した関東地方での古刹。檀林の中でも紫衣檀林としての格を誇るとともに、浄土宗十夜法要発祥の寺院で、三大十夜法要のひとつとして有名。古式にのっとり、引声阿弥陀経・引声念仏によって行われ、昼夜を問わず多くの参拝客が訪れる。 
だいぜん じ 東京都 大善寺(滝山) 〔創建〕天正13年(1585) 〔開山〕牛秀上人 〔特徴〕関東三大十夜寺のひとつ 八王子城主北条氏照の命により創建された寺院。徳川家康、八王子総奉行大久保長安の庇護を受け発展、二十余か寺の末寺を持っていた。 当初の滝山の地から八王子城下、さらに八王子市内の大横町から大谷町への移転している。また現在は浄土宗を離れ単立寺院となっている。 	でんづう いん 東京都 傳通院(小石川) 〔創建〕応永22年(1415) 〔開山〕聖岡上人 〔特徴〕徳川家康生母の菩提寺 今日の浄土宗の基礎を築いた聖岡上人開山のお寺。創建約二百年後に徳川家康の生母、於大の方の菩提寺となり、その戒名の傳通院と呼ばれるようになる。増上寺から学問僧三百人が移り、関東十八檀林の上席、紫衣檀林となり、多くの学僧が集まった。また、明治初期に佛教の巨匠と呼ばれた福田行戒上人が六十四世の貫主だった。 	ばんずい いん 東京都 幡随院(下谷) 〔創建〕慶長8年(1603) 〔開山〕幡随意上人 〔特徴〕徳川家の祈願所 徳川家康が京都の大本山百万遍知恩寺の三十三世であり、浄土宗叢林四哲の一人であった幡随意上人を招いて祈願所として創建した寺院。幡随意上人はキリスト教を禁止する派遣僧に選ばれ、九州で布教活動を行うなど当時最も優れた高僧の一人。江戸時代に五回焼失し現在の小金井に移り単立寺院となっている。 
そうじょう じ 東京都 増上寺(芝) 〔創建〕明徳4年(1393) 〔開山〕聖聡上人 〔特徴〕十八檀林筆頭寺院 浄土宗第八祖聖聡上人が現在の千代田区平河町から麴町のあたりに創建した寺院。徳川家康が徳川家の菩提寺として(1590)、その八年後に現在の芝の地に移転。関東十八檀林の筆頭、主座をつとめ、京都総本山知恩院と並び、二十五万坪の境内には常時三千人の修行僧がいた。 	れいがん じ 東京都 靈巖寺(深川) 〔創建〕寛永元年(1624) 〔開山〕靈巖上人 〔特徴〕江戸六地藏の寺 沼津出身の靈巖上人が大巖寺で修行し第三世になった後、江戸に教を広めるために創建した寺院(後の靈巖島、現在の中央区新川)。靈巖上人は後に知恩院の第三十二世になっている。江戸中期に江戸市中の六ヶ所に、病氣平癒を祈願する人々の浄財で造立された地藏尊が鎮座している。 	れいざん じ 東京都 靈山寺(本所) 〔創建〕慶長6年(1601) 〔開山〕大潮上人 〔特徴〕檀林復興の寺 開山大潮上人は近江出身で駿河に創建。二万坪の境内に学寮三十棟の檀林だったが、第二世の時に本郷湯島に移転してから学僧が減り、檀林中絶となり浅草に移転、境内は四千四百坪に。その後本所へ移り、再度檀林として興隆する。法然上人絵図をはじめ多くの仏像があったが、度重なる火災で焼失している。 

※各寺院の住所等は『青山』35号をご参照下さい。

梅窓院恒例の人気行事、秋のピアノコンサートで、私たちを楽しませてくれる さん。国際的に活躍されるさんのピアノとの出会いと夢を語っていただいた。

◆レッスンでお疲れだと思いますが、よろしくお願い致します。最初に さんのピアノとの出会いからお聞かせいただけますか。

三歳の時のトイピアノですね。我が家は音楽一家で、父がギター、母はピアノとダンス、祖父も音楽好きでワーグナーをよく弾いていました。ですから、自然と僕もピアノに親しみました。

◆気づいたらピアノを弾いていたという環境だったのですね。

そうです、ピアノは本当に好きでした。

子供の頃は喘息がひどかったのですが、ピアノの前に座るとこれが不思議にピタッと止まる。学校に行くようになっても仮病をつかいピアノを弾いていたぐらいですから。

◆勉強よりもピアノが好きだったのですね。

うーん、とにかく音楽が好きで、音楽が一番の友達でしたし、音楽で生きていこうとその頃から思っていましたから。

◆最近あまり使わなくなりましたが、「稽古事」という言葉があり、今で言う習い事、レッスンのことですが、稽古事と言っていた頃、女の子はピアノでした。今は水泳とか英会話も多いようですが、ピアノは女子の嗜みといった時代だったようにおもいます。やはり音感を養うには子供の頃が一番いいのでしょうか。

そうですね、何でも小さい頃に習うことは身体で覚えますからね。

私もここでピアノを生徒さんに教えていますが、日本のみなさんはクリアな音を出されるし、真摯な態度でピアノに向かうのがいいですね。

◆ピアノもお国柄が出るのですか。

それはそうです。オランダという国はキリスト教の中でも自己主張を抑える厳しい教えの国ですが、これは音楽にとっては残念ながらマイナスです。音楽は自己表現ですから。ピアノに向かうその人がその人なりにどう弾くか、が大切なのですから……。



目を輝かせながら
ピアノについて
語る 氏

◆なるほど。

日本はそれに加えて海外のものをちゃんと取り入れられる。リストコンクールには日本人が多いのですが、そうした人たちの曲を聴いているとわかります。みんな工夫と努力を欠かしていない、とね。

◆そう言っただけだと嬉しいですが、聴衆も違いますか。 さんは世界各国で演奏されていますが……。

もちろんあります。日本人の聴衆は最初から集中して聴いてくれて、神聖な空気の中で演奏できます。

一例ですが、ギリシャはザワザワとした中で始まりますから、国それぞれです。

◆梅窓院でのリサイタルも、もう10年以上になりますが、いかがですか梅窓院の聴衆は？

それはもう世界一の聴衆です(笑)。

世界一はともかく、お寺と縁をもっている方は精神的なものを求められていると思うのですが、音楽も精神的なものを探す芸術です。このひとつのものを求めるということでは、宗教も音楽も同じです。

そして演者も聴衆も一つのものを求める中でいい気持ちになり、ひとつになれる。

◆なるほど、芸術と宗教はつながっているのですね。

話を戻しますが、ピアニストとして生きていくきっかけはあったのですか。

子供の頃の喘息の話をしたが、病気がちだったのが十四、十五歳で治って、逆に病気だったことで何か特別なパワーが貯められていたのか、病気が治りピアノの腕がステップアップしました。

◆そしてリストコンクールでの優勝。

もう二十四年前ですが、あの優勝で世界的にも認められました。日本に来たのもその優勝のおかげで、もう二十四年経っています。

◆通訳をされている奥様は日本の方ですが、日本語はいかがですか。

六カ国語しゃべりますが、残念ながらその中に日本語はありません(笑)。難しいですね。

◆そうですか、日本語をぜひ七番目の外国語にして下さい。

さて、今リサイタルやコンサートで心がけていることがあれば教えて下さい。

最近ビジュアルの時代になってきています。音楽家にとっては「見る」より「聴く」方が大切なのですが、音楽も耳だけの時代が終わりつつあるように思います。ですから前後や曲間にトークをいれるなど、工夫はしています。

◆最後になりますが、どんな夢をお持ちでしょうか。

夢ですか、夢は本が一冊かけるくらいたくさんあるので、次の機会に。

◆いいですね、本一冊分の夢なんて。

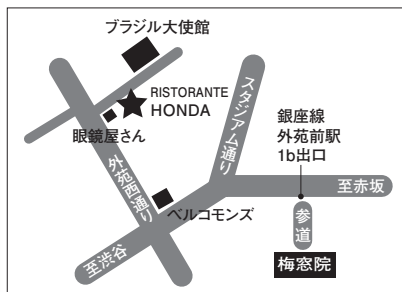
本日はありがとうございました。また祖師堂で素敵なピアノを聴かせて下さい。

レストランテ ホンダ

心もお腹も大満足

昨年『ミシユランガイド東京』で一つ星を獲得したイタリアンのお店。白とダークブラウンを基調にした店内は、アットホームな雰囲気。ゆつくりとした食事の時間を過ごしてもらいたいと願うシェフの言葉通り、優しい照明で演出され、落ち着いた空間を演出している。丁寧に運ばれて来るお料理たちは、旬の素材を豊

かな表現で存分に活かし、舌ではもちろん、目でも十分に味わわせてくれる。
お勧めの一品はお客様と一緒に作り上げて行きたいと、まだまだ模索中とのこと。
「美味しいと言ってもらえる事が一番嬉しい」と語るシェフの横顔からはお料理に対する気持と、どこか素朴なあたたかさを感じられた。
お店のスタッフが一丸となってお客様一組一組を心からもてなしてくれる。



営業時間／ランチ12:00～14:00 (L.O)
ディナー18:00～22:00 (L.O)
定休日／月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日火曜日)
席数／9卓(最大26名)
住所／東京都港区北青山2-12-35 小島ビル1F
TEL／03-5414-3723 FAX／03-5414-3724



お昼のコースは4種類で2,940円～。
ご相談もできます。
(要予約)



夏野菜の冷たいフェデリニ。
純白のお皿に見事な盛り付けで美味しさも倍増!

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○ 頂きを残して島の夏霞

◎佳作

○ 婚約の指輪とこのふ半夏生
○ 郭公や裏磐梯に沼いづく
○ 夕虹や大煙突は煙吐く
○ 涼しさを寄せる白波由比ヶ浜
○ 夏料理旧姓で呼ぶ同窓会
○ 木漏れ日も風も浄土や夏の寺
○ みどり子の産毛の匂ふ晩夏光
○ 大空に白百日紅咲きにけり
○ 幼子の水辺ではしゃぐ日の盛り

◎選者詠

○ 山の端に日のある郡上をどりかな

〈ペンポイントアドバイス〉

俳句はいまは目で詠むことが多くなっているのですが、本来は耳で聞いて味わうものだと思います。そのためには調べを大切にすべきで、わたしは、「上五は字余りになっても構わないが、中七と下五はきちと決めて」といつています。中七の字余り作品を声に出して詠むと、たいていの人がそこでもまごつきます。そこに欠点があるからです。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。11月7日を締切、平成21年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第三十二回
食は命なり
アンチエーシングの旗手「栗」
武鈴子 食養研究家

秋の風物詩「栗」。渋皮に包まれ、固い皮に守られ、さらにイガをかぶる箱入りぶりは驚くべきものです。こうまでしていったい何から身(実)を守ろうとしているのでしょうか。昔から日本では『中秋の名月』を『芋名月』とも呼び、一ヵ月後の『九月十三夜』(現十月)を、『栗名月』・『豆名月』とも呼んで、この頃収穫される栗や枝豆をお供えする慣習がありました。

陰陽五行説では食べ物を「酸・苦・甘・辛・鹹(かん)」の5つの味に配属しています。この五味は五臓と関連していて、酸味⇒肝臓、苦味⇒心臓、甘味⇒脾胃、辛味⇒肺、鹹味⇒腎臓の働きを助けます。栗はその中で「甘味」ではなく、腎臓の働きを補う『鹹味(かんみ)』(塩から味)に属しています。栗には筋肉や骨を丈夫にしたり、加齢による体力不足・足腰の衰弱を補ったり、血液の流れをよくするなどの効果があります。これらは腎臓の働きによって左右されるのです。

栗の食べ方としては、茹で栗、焼き栗、栗ご飯、渋皮煮、栗キントンなどがあります。

栗ご飯は、米をといで釜に入れ、分量の水に、皮をむいて適当な大きさに切り分けた栗、酒・塩・昆布を加えて普通に炊き上げます。

名月を愛でながら、「栗ご飯」「さんまの塩焼きにスダチ」「きのこの雲和え」などの秋の献立を楽しみましょう。

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(火)

寄席 午後1時～ 観音堂
法要 午後2時～ 本堂



お彼岸ライブin青山
開場 午後2時45分～ 祖師堂
開演 午後3時15分～
※詳しくは3面をご覧ください。

第45回 念仏と法話の会

10月27日(月)

受付開始 午後12時～
別時念仏会／法話／茶話会
【講師】
佐賀教区 鏡智院住職
中村 一之上人



十夜法要

11月15日(土)
法要／芋煮会

※詳しくは十夜号にてお知らせ致します。



発行／梅窓院
発行日／平成20年9月1日
発行人／中島 真成
編集／青山文化村
住所／〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8447
FAX／03-3404-8107
ホームページ／<http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題字／中村康隆前浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

平成20年度 後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より平成20年度 後期 仏教講座を開講します。講師は前期より引き続き、新井先生、勝崎先生、阿川先生、本林先生の4名の講師でお送りいたします。どうぞお気軽にご参加ください。

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶観音堂

講題 仏・菩薩 —その教えと信仰

講師 勝崎 裕彦 先生
香蓮寺住職 大正大学教授

- 第1回 11月13日(木)
不動明王とその信仰
- 第2回 12月18日(木)
その他の明王について
- 第3回 2月19日(木)
十三仏信仰

講題 日本の阿弥陀仏信仰の展開

講師 新井 俊定 先生
天然寺住職 大正大学出版会主管

- 第1回 12月24日(水)
奈良・平安期の阿弥陀仏信仰
- 第2回 1月21日(水)
鎌倉期の阿弥陀仏信仰
- 第3回 2月24日(火)
鎌倉期以後の阿弥陀仏信仰

講題 水陸会 —現代中国の仏教儀礼

講師 阿川 正貫 先生
浄土寺住職 大正大学講師

- 第1回 11月19日(水)
水陸会・その現況
- 第2回 1月26日(月)
水陸会・その歴史
- 第3回 3月 2日(月)
水陸会・その内容

講題 墓と供養 —民俗学の視点から—

講師 本林 靖久 先生
真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学講師

- 第1回 10月 3日(金)
墓上植樹と梢付塔婆
- 第2回 11月 7日(金)
両墓制と無墓制
- 第3回 12月12日(金)
霊場崇拝と納骨信仰



大光院開山堂



秘仏、十一面観世音菩薩が安置されている水澤寺。



榛名湖畔で記念撮影。



大光院本堂前にて。

梅窓院団参旅行報告
太田 義重 山 大光院新田寺参拝旅行
平成20年5月24日(土)～25日(日)
本年度は、関東十八檀林の二寺でもあります、群馬太田の大光院を参拝して参りました。
小雨がぱらつく両日ではありませんでしたが、
四万の温泉にも浸かり、楽しい参拝旅行となりました。

梅窓院よりお願い

最近梅窓院墓苑内で、お供えているお花が切られるという事件が続いています。墓参にいられた方々も、不審者を見かけましたら受付までご一報くださいますようお願い致します。また、墓苑はお檀家様皆様の大切な場所です。皆様が気持ちよくお参りできますよう、公共の場をきれいに使い、ご自分のお墓と同様に他のお墓も汚したりしないよう大切にしてくださいようお願い致します。

「食は命なり」で好評連載中の武鈴子先生が本を出版しました。『薬膳で読み解く江戸の健康知恵袋 いろはに食養生』(家の光出版)二、三六五円で発売中です。
秋彼岸が近付いて参りました。お中日当日は法要の他、お呈茶寄席・墓参の後にはライブ鑑賞もできます。是非、ご家族揃ってお参り下さい。
(智)

編集後記